

市議会12月定例会



今年は四月下旬に降霜、七月には日照不足に見舞われましたが、他には天災被害も少なく、作物は全体的に平年並みを維持しています。しかし、二年前から発生量が激増しているカメムシ類が、今年には水稲・果樹の他に一部の野菜にも被害を及ぼしているため、この

農作物は平年並に カメムシ防除対策が課題

携し就職面接会の個別開催や地元企業訪問による新規求人への開拓等に取り組んできました。しかし、企業の新規雇用の意欲は弱く、特に高校生の就職内定率は十月末で六一％と、前年同期比一二ポイントのダウンとなっています。今後はより一層地元企業の求人掘り起こしに力を入れるほか、PTAや同窓会、首都圏大館ふるさと会等の人的ネットワークを活用した求人開拓に取り組んでいきます。

このほか、国が全額支援する緊急地域雇用特別基金事業は、平成十一年度から十三年度までの三年間で総額六千八百万円の事業を実施し、延べ五千百人が雇用される見込みです。さらに、この事業が平成十六年度まで三年間延長されることから、本市においても総額一億円を超える事業費となるよう取り組んでいきます。



防除対策が来年度の課題であると考えています。水稲は、七月の日照不足によるいもち病の流行と出穂の遅れによる登熟不良が心配されました。関係機関一丸となつての防除と登熟期以降の好天により作況指数は一〇二まで回復し、一等米比率も八二％台を維持するなど「やや良」の作柄となっています。果樹の生育は四月下旬の霜害の他に、カメムシ類による被害が、大きな影響を及ぼしています。霜害への対策として防除費の助成、資金の融資制度が適用されることになっていきます。

野菜は一部を除き平年を上回る収量を確保しています。ネギはセーフガード暫定措置発動の効果が目著しで、昨年と比較すると生産者価格は大幅に回復しています。地域特産物の山の芋は、品質に個人差が目立つものの、全国的に品薄傾向で高値が予想されています。米の生産調整への取り組みは、

プロジェクトチームを設置 ゴミ処理施設整備事業

大館周辺広域市町村圏組合ではPFI法に基づくごみ処理施設の整備事業を進めています。建設予定地周辺の方々からの同意取り付けが難航しています。

今年度は一律に三五・二％の転作率でお願したところ、実施面積が一〇〇％を超える見込みです。なお、平成十四年度の生産調整目標面積は、今年度より七十八ヘクタール少ない千二百四十八ヘクタールとなりました。農家の皆さんへの配分は、今後水田農業推進協議会で検討していきます。

そのほかの行政報告

このことから、市の企画部資源リサイクル対策室を事務局とするPFI支援プロジェクトチームを設置しました。このチームには、

比内町・田代町からの参加も受けて、広域規模で連携し本事業を支援していくこととしています。また、去る十一月十六日には、広域組合と地元町内会からなる協議会が設置されました。二度の協議をしましたが、なかなかご理解を得られない状況です。今後も定期的に話し合いを進めていきます。

- ・平成十一、十二年度大館市のバランシート公表
- ・インフルエンザワクチン予防接種実施
- ・エコタウンフェア21inおおだて開催
- ・小柄沢墓園普通墓地供用開始
- ・中心市街地活性化への取り組み状況
- ・秋のまつり行事開催
- ・秋の市日まつり
- ・本場大館きりたんぼまつり
- ・トムトムの里フェスティバル
- ・第八回首都圏大館ふるさと会総会開催
- ・中央図書館100周年記念事業実施
- ・市立総合病院増改築事業の設計者選定状況
- ・公共事業の進展状況